

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2022-12863
(P2022-12863A)

(43)公開日

令和4年1月17日(2022.1.17)

(51)Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
<i>G 0 1 N 3/34 (2006.01)</i>	G 0 1 N 3/34 D	2 G 0 6 1
<i>B 0 6 B 1/12 (2006.01)</i>	B 0 6 B 1/12 K	5 D 1 0 7
<i>B 0 6 B 1/16 (2006.01)</i>	B 0 6 B 1/16	

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 13 頁)

(21)出願番号	特願2020-114995(P2020-114995)	(71)出願人	598015084 学校法人福岡大学 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
(22)出願日	令和2年7月2日(2020.7.2)	(74)代理人	100197642 弁理士 南瀬 透
		(74)代理人	100099508 弁理士 加藤 久
		(74)代理人	100182567 弁理士 遠坂 啓太
		(72)発明者	遠藤 正浩 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号 学校法人福岡大学内
		Fターム(参考)	2G061 AA07 AA08 AB06 BA01 BA15 DA01 DA19 EA01 EA07 EB03 5D107 BB09 DD08 DD09

(54)【発明の名称】 繰り返しモーメント発生装置

(57)【要約】

【課題】疲労試験機に用いることができ、偏心重錘の回転中においても供試体に負荷する繰り返しモーメントの振幅を変更可能な繰り返しモーメント発生装置を提供する。

【解決手段】繰り返しモーメント発生装置100は、回転自在に保持された軸体4、5と交差する状態で且つ軸体4、5と交差する方向に沿ってスライド可能な状態で軸体4、5に設けられた偏心重錘部材6c、7cと、軸体4、5の軸心4c、5c方向に沿って摺動可能な状態で且つ軸体4、5が空転可能な状態で軸体4、5に取り付けられたスライダ31、32と、スライダ31、32の軸心4c、5c方向の摺動運動を、軸体4、5と交差する方向のスライド運動に変換して偏心重錘部材6c、7cに伝達するリンク機構34、35と、スライダ31、32を軸体4、5の軸心4c、5c方向に沿って摺動させる操作手段であるハンドル44などを備えている。

【選択図】 図3

